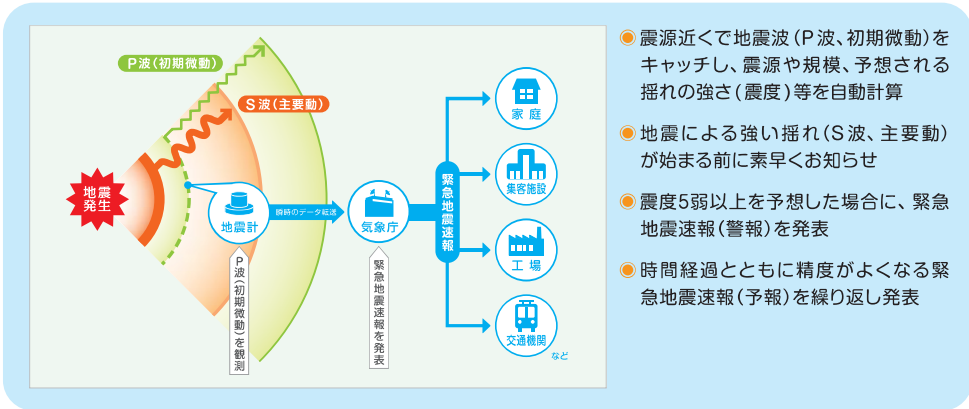


緊急地震速報のしくみ



- 震源近くで地震波 (P波、初期微動) をキャッチし、震源や規模、予想される揺れの強さ (震度) 等を自動計算
- 地震による強い揺れ (S波、主要動) が始まる前に素早くお知らせ
- 震度5弱以上を予想した場合に、緊急地震速報 (警報) を発表
- 時間経過とともに精度がよくなる緊急地震速報 (予報) を繰り返し発表

※ 震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合いません ※ 予想した震度には±1程度の誤差を伴います
 ※ 緊急地震速報は、予想震度の誤差などにより、発表が遅れたり、発表ができない場合があります

緊急地震速報は、どうやって聞くことができるの？

<p>緊急地震速報</p> <p>テレビ・ラジオ</p>	<p>携帯電話</p>	<p>防災行政無線</p>	<p>受信端末など</p>
● テレビやラジオ※1を視聴している時に、報知音※2とともに放送されます	● 緊急地震速報を受信し、報知音※2で知らせる携帯電話があります	● 市町村※1の防災行政無線から報知音※2とともに放送されます	● 受信端末※3などでは、気象庁が発表する警報や予報のほか、独自に個別地点の震度などを予想し、報知します

※1 準備の整った放送局や市町村 (全国瞬時警報システム (J-ALERT) を利用) から放送が開始されています
 震度5弱以上で放送する局ばかりでなく、もっと大きな震度の時だけ放送するところもあります
 ※2 緊急地震速報専用の報知音があります。音を覚えて、その音を聞いたらとっさに身を守る行動をとれるようにしておきましょう
 ※3 緊急地震速報を受信し、音声報知や機器の制御を行うための装置。受信端末を導入した事業者では、法人税等の軽減措置を受けられる場合があります

緊急地震速報を聞いたら、いつまで身を守ればいいのか？

- 震源から遠い場所では、強い揺れが届くまでに時間がかかりますので、揺れがなくなっても見聞かしてから1分程度は、身を守るなど警戒しましょう
- 地震による強い揺れは、長くて1分程度です。その間は身を守る行動をとり続け、揺れが収まってから落ち着いて行動しましょう

❖ ご注意ください! ❖

気象庁が、国民のみなさまに受信端末の設置を義務づけたり、直接設置に伺ったりすることはありません!

● 緊急地震速報は、財団法人鉄道総合技術研究所と気象庁による共同技術開発と、独立行政法人防災科学技術研究所による技術開発の成果により可能となりました

【お問い合わせ先】
気象庁 地震火山部管理課
 〒100-8122 東京都千代田区大手町1丁目3番4号
 電話: (03)3212-8341 (代表)
<http://www.jma.go.jp/>

詳しくは

このリーフレットは、印刷用の紙へ裏サイズできます。

平成23年1月

いのち
命をまもるおしらせだ
 高知県 北岡七海さんの作品

緊急地震速報

地震による強い揺れを事前にお知らせするための
 地震動の警報・予報です

緊急地震速報のながれ



国土交通省
気象庁

まわりの人にも声をかけながら

地震の揺れを感じたら…

(緊急地震速報がなくても)

あわてず、まず身の安全を!!

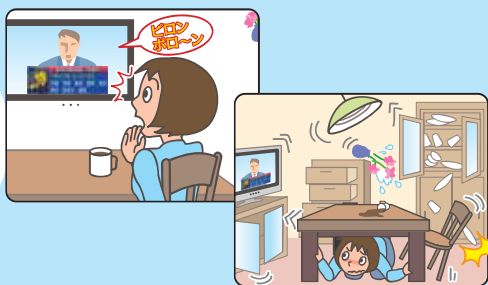
緊急地震速報を見聞きしたら…

(地震の揺れを感じなくても)

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れがくるまでの時間は 数秒から数十秒 しかありません

家庭では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- むりに火を消そうとしない



自動車運転中は

- あわててスピードをおとさない
- ハザードランプを点灯し 周りの車に注意をうながす
- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとす

緊急地震速報



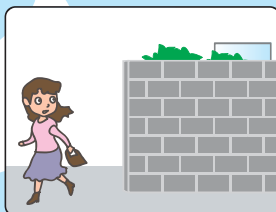
人が大勢いる施設では

- 係員の指示にしたがう
- あわてて出口に走り出さない



屋外(街)では

- スロッキン塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意



鉄道・バスでは

- つり革、手すりに しっかりつかまる



エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ すぐにおりる



周囲の状況により具体的な行動は異なります。日頃からいざというときの行動を考えておきましょう